

2010 Photography record of Osprey.



三陸に羽ばたく

2010 ミサゴ撮影記



2010 ミサゴ撮影記

三陸に羽ばたく

ミサゴは魚食性のタカです。巣は大木のテッペンや島の岩頭にあります。20年前から河口で行われる狩りの撮影をしていましたが、ボラやウグイの遡上が激減した頃から出会いが減り、特にダイブが見られなくなったのは残念です。繁殖が心配になりました。

2007年に観察始めた巣は双眼鏡でなければ鳥を確認できない距離でしたが生活を垣間見るには十分でした。2008年は巣が強風で崩落しました、幸いにも産卵前で再構築して乗り切りました。

2009年は繁殖が失敗しました。そのあと別のカップルの巣を見つけました。そこは島を取り囲むように赤松の林立した岬が伸び、気づかれずに観察できる場所です。

2010年、ミサゴの記録を残したいと思い、求愛から巣の放棄まで撮影に挑みました。



メスが初めて巣に現れましたのは3月15日、オスも4日遅れで到着しました。求愛期の最初はカップルにズレが生じて繁殖が危ぶまれました。そのあと巣材を運び、31日に求愛給餌で交尾に発展しました。

4月は交尾がかなめです。同じ島で繁殖するウミネコとの攻防は毎日あります。テリトリーに仲間が頻繁に侵入してきます、排撃してもその後も続きます。カラスやトビにも油断できません。強敵ハヤブサも近くにいます。最初の産卵は4月20日、それから2日おきに3個産卵しました。

5月、抱卵期に運ぶ魚はウグイとサヨリが主でした。1番ビナのふ化は27日、2番ビナは30日、3番ビナは31日と続き、無事3羽が誕生しました。

育雛期の6月、獲物が少ないときはヒナに与えるため、メス親は空腹が続きます。運ぶ獲物はイワナ、ヤマメ、ウグイ、ボラ、数もだんだん増えてきました。

食事のときに1番ビナが弟妹をいじめても、親は見ているだけです。止まり木での食事やストレッチも撮れました。ウミネコとの攻防は激しくなります。



7月に入ると幼鳥です、食事量も多くなる。運ばれる獲物は、トビウオ、ショッコ、ウミタナゴが加わり、サンマ、カレイ、カラフトマスもありました。

幼鳥同士が争って食事することが多く、ストレッチも頻繁になり、羽ばたき回数も日々増えていきます。22日に1番ビナが初めて巣の外に飛び出しました。激しい獲物の取り合いはのあとも続きます。

1番ビナの巣立ちは22日、2番ビナは28日、3番ビナは31日と続き、無事に3羽の巣立ちに立ち会うことが出来ました。

8月はもう若鳥です、巣の近くの止まり木で水面と睨めっこし、親が持ち込む魚はショッコやイワナが多く、獲物が届くとわれ先に戻ります。

1番若は食事を独占するために弟妹を追い出す行動をとります。ライブあとの身震いも見られるようになり、止まり木の食事回数も多くなりました。

後半、若鳥は自力で魚を獲って巣に戻らない日もあります。8月28日にメスがイワナを届けその日が終認となりました。



9月4日に1番若と3番若の終認。5日はオスがショッコを届けて終認。6日には2番若が待っても魚は届かず、終認と巣の放棄日になりました。

リアス式海岸の複雑な地形で親子の別れまでは無理、10日で観察を終了しました。

再び訪れると、周辺ではカラの巣が目立ち、幼鳥が飛ぶ姿がありません。新天地へ旅たったのです。ミサゴの生きる三陸よ永遠なれと祈りました。

観察日数153日、魚の種類は〇〇種、〇〇〇尾でした。撮影した写真は33,000カット、その中の897枚と約81,000字の解説でミサゴの子育てを紹介します。

(写真4枚 2008年撮影)

<http://spatelier.web.fc2.com/>